

令和6年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補**・ 県単

事業名	農地整備事業 [畑地帯総合整備事業(国補)]		事業箇所	山梨市万力		地区名	万力		事業主体	山梨県							
(1) 事業着手年度	H22年度		(2) 事業期間	H22年度～R1年度		(3) 完了後経過年数	5年		(4) 総事業費	2,071百万円							
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等											
<p>本地区は、甲府盆地の北東部に位置し、笛吹川フルーツ公園に隣接する、ぶどう、ももを中心とした果樹生産地であり、若手農業者等は観光農業への転換といった、新たな取り組みが進められている。</p> <p>しかしながら、地域内の農道は幅員が狭く、農作業車両の乗り入れが困難であることから、機械作業の導入が進まず人力作業を中心とした営農体系となっていた。また、近年では厳しさを増す産地間競争、高齢化や後継者不足、さらには基盤整備の立ち遅れなどにより、農業生産の減少や耕作放棄地の増加が問題となっていた。</p> <p>このため、区画整理による担い手への農地集積および、農道・水路の整備を行い、農作業の省力化・効率化を実現するとともに、農業経営の安定化を実現した。</p>						<p>地理院地図(国土地理院)を加工して作成</p>											
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果																	
<p>□主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業生産力の向上 <p>□副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ○農業用排水能力の向上 <p>□副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊休農地の解消 ○果樹園景観の保全 																	
(7) 整備内容(目標達成の方法)																	
<table border="0"> <tr> <td>・区画整理</td> <td>2箇所</td> <td>A=</td> <td>22.5 ha</td> </tr> <tr> <td>・用排水路</td> <td>2路線</td> <td>L=</td> <td>460 m</td> </tr> <tr> <td>・農道</td> <td>6路線</td> <td>L=</td> <td>3,393 m</td> </tr> </table>						・区画整理	2箇所	A=	22.5 ha	・用排水路	2路線	L=	460 m	・農道	6路線	L=	3,393 m
・区画整理	2箇所	A=	22.5 ha														
・用排水路	2路線	L=	460 m														
・農道	6路線	L=	3,393 m														

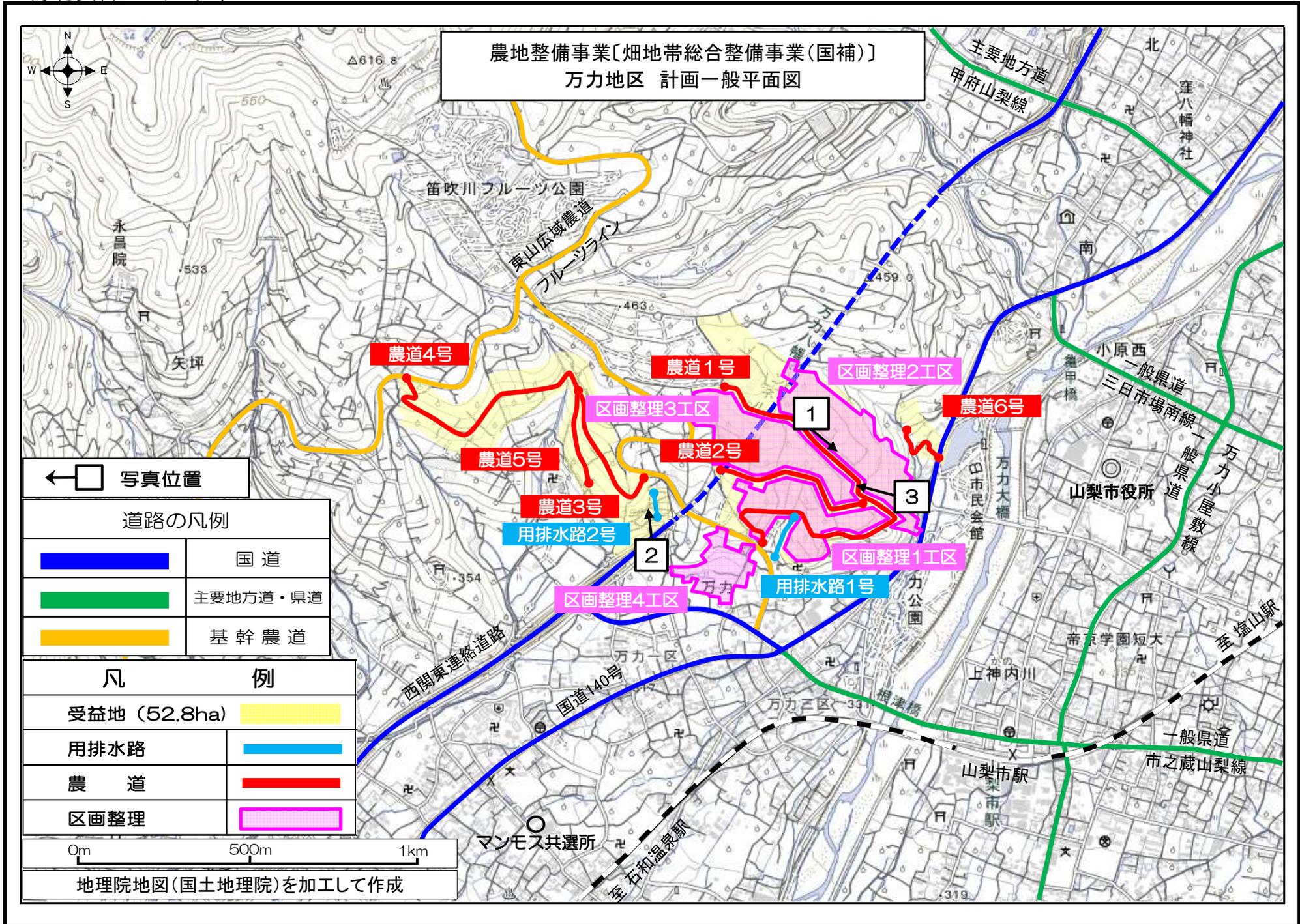
2.評価シート(1)

(1) 事業貢献度 (良)・不良	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 (有)・無																																																															
<p>(理由)</p> <p>当該地区において、区画整理、用排水路、農道が一体的に整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上した。</p> <p>また、営農条件が改善され、農業者の維持管理労力が軽減されたことで、果樹農業の振興に大きく寄与している。</p> <p>併せて、農道の整備により集落や拠点施設等へのアクセスが向上し、地域内において安全な移動が確保され、マンモス共選所への安定した出荷が可能となった。</p> <p>①主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積当たり農業増加所得額</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">2,211千円/ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業所得の増加額が評価基準値810千円/haを上回っている。 <p>②副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上、農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4m以上道路延長率</td> <td style="text-align: center;">0%</td> <td style="text-align: center;">100% ※2</td> </tr> <tr> <td>施設老朽度</td> <td style="text-align: center;">2.00 ※1</td> <td style="text-align: center;">0.30 ※3</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">1.04 ※4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 評価指標が当時と異なるため、今回改めて算出</p> <p>□評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 改良が必要な農道3.4kmの全てを幅員4.0m以上に整備している。 <p>※2 (全幅員4.0m以上道路延長率) = (対象路線の全幅員4.0m以上の区間延長: 3.4km) ÷ (対象路線の全延長: 3.4km) = 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。 <p>※3 (施設老朽度) = (使用年数: 9年) ÷ (既存施設の耐用年数: 30年) = 0.30 ≤ 1.00</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により通水能力が向上しており、排水能力は改善されている。 <p>※4 (排水能力向上率) = (計画排水能力: 0.197m³/s) ÷ (既存排水能力: 0.190m³/s) = 1.04 ≥ 1.00</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休農地の解消</td> <td>基盤整備により地区内の遊休農地が解消され、ももやぶどうの生産が拡大した。</td> </tr> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>基盤整備により果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況</p> <p style="text-align: center;">なし</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	面積当たり農業増加所得額	-	2,211千円/ha	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	全幅員4m以上道路延長率	0%	100% ※2	施設老朽度	2.00 ※1	0.30 ※3	用排水能力向上率	-	1.04 ※4	項目	内容	遊休農地の解消	基盤整備により地区内の遊休農地が解消され、ももやぶどうの生産が拡大した。	果樹園景観の保全	基盤整備により果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点</th> <th>事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">1,995 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,071 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td style="text-align: center;">H22~H27</td> <td style="text-align: center;">H22~R1</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td style="text-align: center;">H21</td> <td style="text-align: center;">R6</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td style="text-align: center;">1,846 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,844 百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td style="text-align: center;">1,530 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,211 百万円</td> </tr> <tr> <td> 関連事業費</td> <td style="text-align: center;">316 百万円</td> <td style="text-align: center;">633 百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td style="text-align: center;">3,036 百万円</td> <td style="text-align: center;">3,581 百万円</td> </tr> <tr> <td> 走行経費節減効果</td> <td style="text-align: center;">1,878 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,030 百万円</td> </tr> <tr> <td> 作物生産効果</td> <td style="text-align: center;">544 百万円</td> <td style="text-align: center;">635 百万円</td> </tr> <tr> <td> 営農経費節減効果</td> <td style="text-align: center;">331 百万円</td> <td style="text-align: center;">460 百万円</td> </tr> <tr> <td> その他※</td> <td style="text-align: center;">283 百万円</td> <td style="text-align: center;">456 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C※</td> <td style="text-align: center;">1.6</td> <td style="text-align: center;">1.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他は、維持管理費節減効果、災害防止効果、一般交通等経費節減効果、品質向上効果</p> <p>※費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析)</p> <p>総事業費: 用排水路の工法変更による工事費の増額。</p> <p>工期: 区画整理における地元合意形成に時間を要したことによる延期。</p> <p>(3) 事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響</p> <p>基盤整備の実施により、農作業の効率化など営農条件が改善されたことで、景観に悪影響を及ぼす耕作放棄地の発生防止につながり、地域の良い農村景観が保全されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響</p> <p>なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合)</p> <p>なし</p> <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化</p> <p>なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化</p> <p>なし</p> <p>③事業環境等の変化</p> <p>なし</p>	項目	着手時点	事後評価時点	総事業費	1,995 百万円	2,071 百万円	工期	H22~H27	H22~R1	評価基準年	H21	R6	費用	1,846 百万円	2,844 百万円	建設費	1,530 百万円	2,211 百万円	関連事業費	316 百万円	633 百万円	便益	3,036 百万円	3,581 百万円	走行経費節減効果	1,878 百万円	2,030 百万円	作物生産効果	544 百万円	635 百万円	営農経費節減効果	331 百万円	460 百万円	その他※	283 百万円	456 百万円	B/C※	1.6	1.3
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																														
面積当たり農業増加所得額	-	2,211千円/ha																																																														
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																														
全幅員4m以上道路延長率	0%	100% ※2																																																														
施設老朽度	2.00 ※1	0.30 ※3																																																														
用排水能力向上率	-	1.04 ※4																																																														
項目	内容																																																															
遊休農地の解消	基盤整備により地区内の遊休農地が解消され、ももやぶどうの生産が拡大した。																																																															
果樹園景観の保全	基盤整備により果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。																																																															
項目	着手時点	事後評価時点																																																														
総事業費	1,995 百万円	2,071 百万円																																																														
工期	H22~H27	H22~R1																																																														
評価基準年	H21	R6																																																														
費用	1,846 百万円	2,844 百万円																																																														
建設費	1,530 百万円	2,211 百万円																																																														
関連事業費	316 百万円	633 百万円																																																														
便益	3,036 百万円	3,581 百万円																																																														
走行経費節減効果	1,878 百万円	2,030 百万円																																																														
作物生産効果	544 百万円	635 百万円																																																														
営農経費節減効果	331 百万円	460 百万円																																																														
その他※	283 百万円	456 百万円																																																														
B/C※	1.6	1.3																																																														

評価シート (2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p>
<p>(理由)</p> <p>区画整理を実施したことで、機械作業の導入が進み農作業が効率化されるなど営農環境が改善された。</p> <p>また、農道、排水路整備を実施したことで、荷痛みの防止や、水路断面不足による溢水の解消につながり、果樹の品質が向上した。</p> <p>これらの整備により、担い手の耕作面積も増加し、担い手農業者を中心とした高品質なもも、ぶどうの生産が営まれており、見込んでいた事業効果が発現されるため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p>
<p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <p>なし</p>	<p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>なし</p>

3.添付資料シート(1)



3.添付資料シート (2)

1 農道 1号



幅員が狭く車両の通行が困難であり、また路面状態も悪いことから、荷痛みが発生していた。



農道の整備により車両の安全なすれ違いが可能となった。また、農作物の荷痛みが防止され、果樹の品質が確保された。

2 用排水路 2号



老朽化による石積みの一部崩落及び水路の断面不足により溢水が生じ、補修などの維持管理にも多大な労力を費やすとともに、果樹の生育不良の原因となっていた。

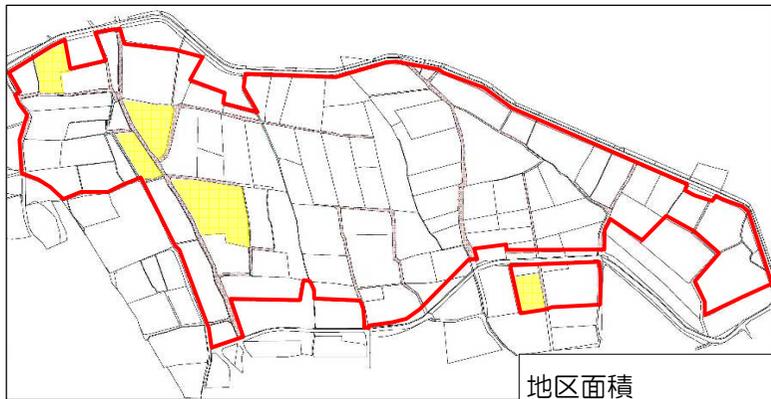


水路の整備により台風や豪雨時においても雨水が適正に排水されるようになり、溢水被害が解消され、果樹の品質が向上するとともに、維持管理の労力が軽減された。

3.添付資料シート (3)

3 区画整理 3工区

事業前



担い手農業者への
集積箇所： 

地区面積
A=7.4ha
筆数:96筆
担い手農業者3名

各所有者の土地が分散していることや農地が狭小で不整形であり、また、農道に接していない農地もあったため、農作業機械が乗り入れできないなど、営農効率が悪かった。

事業後



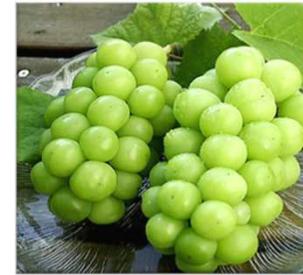
担い手農業者への
集積箇所： 

地区面積
A=7.4ha
筆数:53筆
担い手農業者7名

農地の集団化が進み営農条件も改善されたことにより、担い手農業者への農地集積が可能となった。
また、農道に接したことにより、農作業機械の導入が可能となり営農効率が向上した。

3.添付資料シート（4）

マンモス共選所
・農産物直売所



流通拠点である「マンモス共選所」には、基盤整備により高品質な果樹を安定して出荷することが可能となった。